

新刊レビュー

「神宿る沖ノ島」

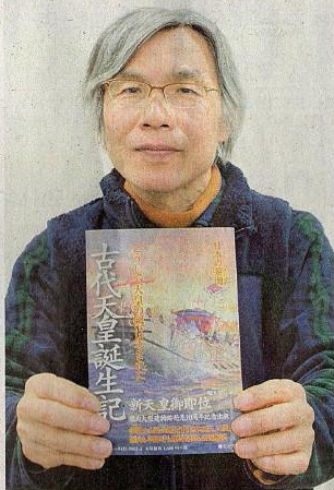
堀田はりい著

世界遺産になった沖ノ島は  
 女人禁制ばかりか男性の入域  
 も厳しく制限している。「海  
 の正倉院」とも呼ばれるこの  
 島の祭祀に関心を持った作家  
 の著者が謎解きに挑む。

岩上から岩陰、さらには露  
 天へ。変遷する祭場と遺物を  
 検討。特に破砕された土器や  
 鏡に注目し、沖ノ島の祭祀と  
 は神霊や死者の「新生・再生」  
 を祈願する儀式ではないかと  
 推測していく。女人禁制につ  
 いては当初の女性斎主が、男  
 性優位の律令祭祀のもと、表  
 面には出ない存在となったこ  
 とがきっかけとみている。  
 (石文書院・1944円)

天皇誕生まで  
 歴史ひもとく

湯布院町の作家・堀田さん出版



「古代天皇誕生記」を出版した堀田はりいさん。本には崇神天皇の皇居の復元想像図などを添えている

由布市湯布院町塚原の作  
 家堀田はりいさん(67)が  
 「古代天皇誕生記」を出版  
 した。文獻や地形などを読  
 み解き、天皇(大王)が誕  
 生するまでの歴史に迫って  
 いる。堀田さんは古代祭祀の研  
 究家でもあり、世界文化遺  
 産の沖ノ島(福岡県志賀郡)

に関する書籍などがある。  
 今回の著書では、邪馬台国  
 の有力候補地とされる奈  
 良県桜井市の纏向遺跡を地  
 形や文獻、祭祀の視点から  
 研究。崇神天皇の皇居であ  
 った可能性を指摘してい  
 る。全国の書店で販売中。1  
 800円(税別)。「間も  
 なく新しい元号を迎える。  
 天皇の始まりとなった時代  
 についても考えてほしい」  
 と堀田さん。

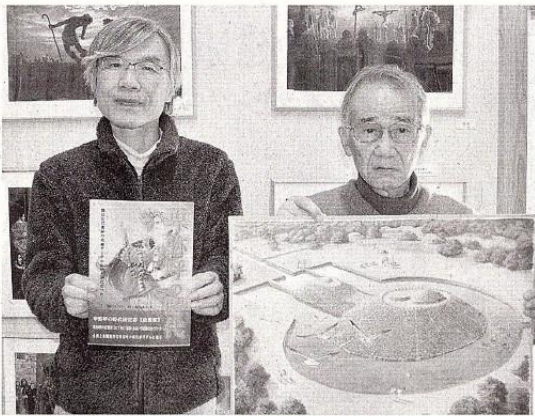
大分合同新聞 平成31年4月12日朝刊

大分合

(第3種郵便物認可)

中 部

由布の古代史研究家・堀田さんが出版  
 「卑弥呼の時代」分かりやすく  
 「謎解き楽しんで」



本を出版した堀田さん(左)と挿絵を描いた梅田さん—由布市湯布院町

【由布】古代史や古代の  
 祭祀を研究する堀田はりい  
 さん(67)が「卑弥呼の時代」  
 塚原IIが「卑弥呼の時代」  
 (B5判、98頁)を出版し  
 た。日本の記述がある古代  
 中国の歴史書「魏志倭人伝」  
 を独自に読み解き、弥生時  
 代後期の暮らしなどを分  
 析した。  
 作家でもある堀田さんに  
 ついては3作目の学術書。分

かりやすく伝えるために  
 は、絵で見せるのが効果的  
 と考え、義兄で歴史画家の  
 梅田紀代志さん(61)と共同  
 川上IIに挿絵を依頼。堀田  
 さんのイメージを基に約20  
 枚掲載した。

1部は「絵画で旅する倭  
 人伝」。これまでに明らか  
 になった発掘データなどを  
 踏まえて当時の食や衣服、  
 髪型などを紹介した。

2部は「建物跡が語る新  
 古代史」。特徴的な柱穴の  
 工法などから、卑弥呼の宮  
 殿は福岡県糸島市にあった  
 と考察を深めた。

各地の市教委の調査報告  
 書を読んだり、問い合わせ  
 るなどしてまとめたとい  
 う。堀田さんは「定説にと  
 らわれず、謎解きをする気  
 分で読んでほしい」と話し  
 ている。

発行元は石文書院(東京  
 都)。全国の書店で販売中。  
 2420円(税込み)。  
 (池田美香)